

令和2年度 東京都自立支援協議会セミナー 実施報告

資料7

1 概要

目的：東京における共通課題や取組、自立支援協議会活動の活性化策などについて、本会議での検討等を踏まえた講演等を実施し、広く関係者へ情報発信を行い、自立支援協議会活動の普及啓発を図る。

実施方法：参加者は、会場参加又は動画視聴を選択

(1) 会場参加

日時：令和2年12月14日（月曜日）13時20分から16時10分まで
場所：東京都庁第一本庁舎 5階大会議場

(2) 動画視聴

配信期間：令和2年12月22日（火曜日）9時から
12月28日（月曜日）17時まで

対象者：一般都民、障害当事者・家族、地域自立支援協議会委員・事務局関係者、区市町村職員、相談支援事業所等職員、障害者支援に携わる者、その他

広報：チラシの作成・配布（約4,800枚）

- ・当センター、東京都障害者サービス情報ホームページへの掲載
- ・区市町村主管課長会等での説明、周知依頼
- ・「福祉保健」10月号、「広報東京都」11月号等への掲載依頼

参加者数：131名（会場参加）

※参考 動画視聴申込者256名

(1) 受講者 102名（申込者 129名）（視聴者数は不明）

所属等別内訳（複数該当があるため、受講者数と一致しない。）

所属等	人数
障害当事者・家族	15名
相談支援事業所	18名
障害福祉サービス等事業所	28名
就労支援機関等	2名
入所施設等	8名
医療機関	2名
民生委員・児童委員	3名
地域自立支援協議会委員等関係者	16名
行政	19名
その他	8名

(2) 聴講者 29名

東京都自立支援協議会委員（登壇者1名を除く。）	11名
東京都自立支援協議会連絡調整会議委員	6名
東京都心身障害者福祉センター職員	12名

2 プログラム

テーマ 当事者の多様な想い・語りを聴くための仕組みを考える

第1部 当事者の多様な想い・語りを聴くための情報提供のあり方

<講師>

又村 あおい 氏（一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会常務理事兼事務局長）

(概要)

当事者の想いや語りを聴くためには、合理的配慮の観点からの情報提供や意思決定支援が必要であり、そのためのプロセス等についてお話いただいた。

- ・想いや語りを聴き取る相手、情報提供したい相手は誰かを考える。
- ・東京都障害者差別解消条例の「合理的配慮」の考え方が役立つ。相互理解によって、建設的対話を行い、対応可能な代替案を示すなど、合理的配慮を模索することが大事
- ・知的・発達障害のある方の想いや語りにたどり着きやすくするために、写真やイラストを活用する等、できるだけわかりやすく伝えることが情報提供のポイント
- ・意思決定支援には、本人が理解できる形での情報提供と見通しの提供が重要。情報提供には、提供側の成育歴や価値観が混入することがあるので、留意する必要がある。

第2部 私が言いたいことを言えた時

<パネリスト>

櫻田 なつみ 氏（株式会社MARS、就労支援事業所co opus 就労支援員兼デイケア就労支援担当、精神障がい者ピアサポート専門員）

中田 健士 氏（株式会社MARS代表取締役、精神保健福祉士）

岡部 宏生 氏（特定非営利活動法人境を越えて理事長、一般社団法人日本ALS協会理事、一般社団法人日本難病・疾病団体協議会理事、特定非営利活動法人DPI日本会議常任委員）

<コーディネーター>

岩本 操 氏（東京都自立支援協議会会長、武蔵野大学人間科学部人間科学科教授）

(概要)

障害や難病のある方が、言いたいことを言える時、言える環境、言える状況とはどのようなことか等について発表、ディスカッション